

東京からはじまる物流改革

総合物流ビジョン



平成18年2月



東京都

総合物流ビジョンの策定にあたって



人の往来と物の交易は文明の源であり、物の交易をはじめとする「物流」の発展は、文明の発展の根幹となってきました。現在では、地球規模で様々な物資が大量かつ高速で輸送されており、私たちの生活や産業活動は、こうした高度で安定的な物流によって支えられています。

また近年は、社会経済の国際化に伴う競争の激化、人々のライフスタイルの多様化などが進む中で、より低コストで、質の高いサービスが求められています。一方、平成 17 年 2 月には京都議定書が発効し、物流においても二酸化炭素の削減等をはじめ、環境問題への取組が大きな課題となっています。

東京は、人口が集中する大消費地であるとともに、東京港や羽田空港といった物流の重要拠点を擁する首都圏の中核です。今、東京から首都圏を見据えて物流のさらなる効率化を進め、国際競争力の強化や暮らしと環境の向上を実現していくことが、東京、ひいてはわが国を再生していくうえで不可欠です。

こうした認識に基づいて、このたび物流効率化に向けて、陸・海・空の物流基盤の整備、産業振興、民間と公共の連携など総合的な観点から、東京都の物流対策の基本的な考え方をまとめ、即効性のある短期的取組と中長期的な総合的取組を示す「総合物流ビジョン」を策定しました。

今後、この「総合物流ビジョン」をもとに、物流の効率化を戦略的に推進し、東京発の物流改革に積極的に取り組んでいきます。

平成18年（2006年）2月

東京都知事

A handwritten signature in black ink, reading 'Ishino Shigeru' (石野 重徳).

総合物流ビジョン 目次

第1章 求められる東京発物流改革

1	「総合物流ビジョン」の位置づけ	1
2	物流を取り巻く環境変化	
	(1) 重要性を増す企業での物流効率化	3
	(2) 国際化の急速な進展	6
	(3) 多様化する消費者ニーズ	8
	(4) 環境やまちづくりとの調和	9
3	求められる東京発物流改革	12
4	東京発物流改革のねらい	
	(1) 物流対策のねらい	15
	(2) 個別対策から連携型総合対策への転換	17

第2章 首都圏を見据えた物流効率化への課題

1	物流の実態に即した課題把握	18
2	物流効率化を阻害する問題点	
	(1) 電気機器	20
	(2) 輸送機械	22
	(3) 機械・金属製品	24
	(4) 印刷関連製品	26
	(5) 衣類など日用品	28
	(6) 生鮮食料品	30
	(7) 加工食料品	32
3	物流効率化に向けた課題	
	(1) 物流ネットワークの早期構築	34
	(2) 国際物流への対応強化	39
	(3) 事業者や地域での取組促進	43
	(4) 環境・安全などの向上に向けた連携強化	50

第3章 めざすべき将来像と対策の方向性

1	めざすべき将来像	
(1)	東京発物流改革の将来像 ～生産から消費まで一貫して効率的な物流～	56
(2)	他自治体や国などとの連携	58
2	物流対策の方向性 ～物流効率化に向けた5つの取組～	59
3	将来像実現に向けた取組目標時期	63

第4章 今後東京都が取り組むべき物流対策

取組1	効率的な物流ネットワークの構築	
①	物流ボトルネックの解消	66
②	物流を支える道路ネットワーク整備の推進	69
③	技術革新に応じた新たな物流基盤の創造	72
取組2	国際的な物流機能の充実	
①	国際貿易拠点としての東京港の能力増強	75
②	港湾運営の効率化	77
③	航空貨物増大への対応	80
取組3	首都圏を支える物流拠点整備の推進	
①	区部流通業務団地の機能更新	81
②	港湾エリアにおける高機能物流拠点の形成	83
③	多摩地域での物流機能強化	85
取組4	地域の活性化に向けた物流対策の推進	
①	荷さばきスペース拡充プロジェクト	87
②	共同配送など物流効率化に向けた地域での取組支援	90
③	物流効率化に取り組む中小企業への支援	93
取組5	物流改善による環境・都市生活の向上	
①	ネットワーク・拠点の有効活用による環境負荷低減	94
②	大型貨物車の走行改善による東京の魅力向上	97
③	安全・安心の向上に向けた物流改善	98
	物流効率化に向けて	105
参考資料	総合物流ビジョン(案)に対する意見の概要 語句索引	107